

平成25年3月12日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 新潟県立高田高等学校 布施 浩史
2. 講師氏名: 東京工業大学 Antoine Morgan Collin
3. 同行者氏名: 東京工業大学 大学院生 森 尚広
4. 実施日時: 平成 25 年 3 月 5 日 (火) 12:45~15:30
5. 参加生徒: 1年生 40人、__年生 __人、__年生 __人 (合計 40人)
備考: 理数科1年の生徒
6. 講演題目: (英文)Linking human societies to coastal live using spatial ecology
(和文)空間生態学を用いた沿岸部の生命と人間社会とのつながり
7. 講演概要:

地球上の人類の50%が沿岸部(海岸から100km以内の範囲)に生活しており、日本人は96%沿岸部に生活している。珊瑚礁や岩礁は、気象攪乱による海の波の脅威を沈める重要な役目をしている。その存在は、費用に換算すると毎年170億ドル程度の価値を伴う。近年の環境破壊による異常気象がこうした珊瑚礁や岩礁の存在を危めている。珊瑚礁の研究調査は重要である。コリン先生の研究目的は、沿岸部に高密度の人口が集中し、年間1500回を越す活発な地震活動のある沿岸危険の代表である日本の社会生態学と局所的・全世界的に変化をする珊瑚礁の回復(復元)力の地図を調査により作成することである。こうした先生の学術研究内容を踏まえながら、

 - (1)珊瑚礁の持つ人類のための沿岸自然環境保持の重要性
 - (2)これからの生態系を解析する最先端の技術
 - (3)重大な結果と今後の見通し (4)コリン先生の経歴と日本で進行しているプロジェクトについて
 - (5)良い学術研究者になるためのアドバイス 等を丁寧に教えていただきました。
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1)講演時間 120分 質疑応答時間 45分
 - (2)講演方法 (例:プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)
プロジェクター使用による講演
 - (3)通訳 (例:同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
同行者によるサポート(進行に関して、先生との会話の通訳)
 - (4)事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)
コリン先生から事前にいただいた、英文のアブストラクト
10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金
11. その他特筆すべき事項: 特になし。